

海女に「つらい」なんて言葉は似合わない

名人 三橋 まゆみ・三重県志摩市

聞き手 伊藤 愛・三重県立桑名高等学校2年

■自己紹介

三橋まゆみと申します。昭和23年の12月1日生まれ。愛子様と一緒に今は70歳で、12月がくると71歳になります。海女をしています。生まれは熊本なんです。たまたま親の都合で小学3年生くらいで志摩にきて。志摩に住んでもう60年ちよつと経つかな。

私の家族はね、娘2人、息子1人で孫が8人います。5年前までは長男と住んでたけど子育ての手伝いが終わって私も自由な時間が欲しいので古民家を買って自分のものにして今一人暮らしをしています。海も近いし、いろんなお客さんも呼べるしね。

■子育てとの両立には海女が一番

子育てと両立できる仕事というのは海女さんが一番ベストじゃないかと。海女の仕事は3年くらいで慣れてくる。最初稽古し始めて1、2年く

らいは子供の面倒見たりなんだかんだして夏の期間はヘロヘロになって7キロ、8キロ痩せちゃう。でも時間的にも自由だし大変だったり用事があったら休めばいいし。子供を持つと仕事に勤めていると休みもらえないでしょ？ 海女は自由なんです。だから子供のことを一番に考えられる。

■私たちの仕事道具

漁に行くときに使う道具はねアワビをとるための「のみ」。昔はねいろんなとこにアワビがおったんで、短いのか長い奥にやれるのかだったけど最近はそのやるくらいのアワビがないので2本くらいさしていくだけ。サザエは1本のみだけでも十分やから。

潜るときに使うのが磯眼鏡とひれとウエットスーツ。磯眼鏡は海で使うから磯眼鏡。曇り止めのためにヨモギを使います。ウエットスーツは夏場は暑いからぎりぎりまで着ない。

捕ったやつを入れる下に網がついた「すかる」っていう浮き輪があるん



捕ったものを入れる「すかる」



物干しに干す



地面に干す



磯眼鏡とひれ

やけど、だいたいそこに3回くらい往復するかな。
潜つてるときは1人ずつ場所を示す赤い旗を立てる。目印になる。漁がおわってウエットスーツなどを干している。こうやってスーツとか道具を物干しに干す人もいれば昔は砂浜に干してたからその名残で地面に干す人もいる。

■海の女じゃない海の男

海女小屋は1部屋6人くらいで乗る船で分けられてる。年齢層が一番若くて40歳くらい。80歳超えても泳いでる人もいますよ。

私たちは8時半準備開始で9時出港。9時半から11時くらいまで漁をして11時15分くらいに戻ってくる。午後は1時半出発で2時から3時半くらいまで。3時50分くらいから捕れたものを漁港に上げる。6月から9月はだいたい1時間半くらい。3月から5月は1時間くらい潜ってるかな。

潜る場所は沖へ出て今日は潮が速かったらこちら、潮がぬるかったらあちらって。沖に目印になる浮きがあるんです。それを「トマエ（船頭）さん」が見て判断します。場所についたら眼鏡を磨いたり自分たちの浮き輪のロープが絡まってないか確認して降りる準備をする。時間がくるとトマエさんが旗を上げるので、その旗を合図に各自で勝手に飛び込む。

海では怖さはないけど、梅雨の季節になると空も暗いし、水も濁ってる



①捕れたサザエを市場に上げる



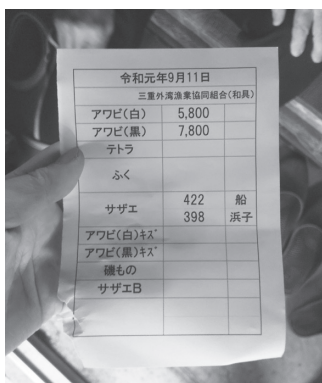
②フォークリフトを使って移動させる



④重さをはかる



③自分の網を探してかごに入れていく



⑤キロいくらの計算



③-2

し暗い日があつて気持ち悪かった。昔作業しとつて水面へ上がつていくのと飛び込むタイミングがぶつかつてしまつて、鼻を怪我したりしたこともあつた。今日は不調だなつて思つてもアワビとかサザエとかいっぱいいるとこにあたつたときはもう忘れてしまふし、あんまり少ないと時間が長く感じるつていう経験もあつた。

漁が終わるタイミングは感覚。時間が近づいたらとまえさんが船のいかりを上げて海女さんに乗せるためののしごをかけたたりするのを10分くらい前からするんで、だいたいわかります。漁では石をひっくり返したりして探す。のみを使つてとるとき、たとえば反対向いて潜つて天井見て捕つたり。上か下かわからんと錯覚を起こすような体勢をとるから大変やよ。それに浮いてしまつて潜れへんから腰に5キロの鉛付けてます。泳ぐときにはすごい邪魔になる。すごいパワーがいる。

今度は捕つたサザエとかを市場に上げる。それをかごに1人ずつ入れて重さをはかる。土木の作業員みたいな気分。結構重労働です。

もうみんな男や。海女じゃない海の女じゃない、みんな海の男や。

■冬

海女としては冬も潜つてるつて人もいます。伊勢エビ漁。12月からはナマコ。私も経験はしています。伊勢エビ捕るときはついたらあかん。エビはバックするからそれで穴にはまつたところをおさ



海女小屋

えて捕る。これはだれでも行つてええんやけど、冬寒いで苦手っていう人もおるし、行く日数が少ないからほかの仕事に行つたほうがお金になるから行ける人は限られてる。6、7人くらい行くかな。私は冬場は民宿にバイトで行ったりしてた。冬に海に入りたいとかはあんまり思わないかな。もう忘れてしまふね。

海女小屋は寒い時期は火場を囲つてお弁当食べたりとかするんです。

■海女だけじゃない

今は海女してないときは観光のお手伝いをしてるんです。海女さんと一緒に潜るツアーをしたり、賢島のホテルとかで夜に海女さんの恰好して、短い時間ですけど和具の海女はこんな感じでやってますよみたいに講演したりしています。一緒に潜るツアーでは、潜るっていう自体が難しい言う人もあるからお客さんに合わせて潜るけど、なかなか大変そうです。でも終わるころには楽しんで帰っていただけです。外国人の方もきます。今は忙しいので仕事を減らしてるんですけど昔は伊勢神宮の茅葺屋根を作ったり民宿でバイトしたり郵便局でバイトしたり。海女さんになる前は保育所の用務員だったり給食のお手伝いとか保育さんのお手伝いとかほんとにいろんな仕事をしてきました。頼まれたら何でもするんです。

■今の海

最近アワビがほんとにいないんです。もう今年はサザエだけ。こんな年は初めてです。「あらめ」っていう餌になる海藻が全然生えてないんです。今年は丸坊主です。水温が高かったり、減るっていうより胞子、種が潮の流れで定着しないんやね。定着する濁り潮みたいなのがこない。去年はアワビは少しはいました。海の状態が悪いんやね。サザエは捕れるけど安いから大変なんです。基本1キロはいくらという入札で決まるんやけどサザ

エは安いからたくさん捕らないとお金にならないでしょ？ だから大変なんです。海女さんにとっては安いけどたくさん捕ったらある程度のお金になるっていうのが頭にあるから競争ですね。アワビは回転をそんなにしなくても捕れるので楽なんです。それに値段もいいから。アワビは1キロ400とか8000とか。サザエは何百円。今だいたいサザエは80キロくらい捕ってる。いいときで100キロ超える。けどキロ300円とか400

円やつたら3万とか4万にしかならない。それに和具は水揚げの15%を毎日船頭さんに払うトマエ代っていうのがあるんです。さらに漁協組合に0.5%。大変なんです。

■海女っていうのは

海女さんはね、みんなが行つてたら絶対休みたくない。みんなが行つてたら行きたい。自分が休みのときはみんなにも休んでほしい。海にみんなが行つてたら絶対休みたくないって思うのが海女なんです。自分がどうしても休まなきゃいけないときは仕方なく休むけど、なるべくなら休みたくない。自分が休んだるときにみんなが大漁したっていうのが浮かんできますよ。悔しくなる。

海女は「欲と根性」があつたらだれでもなれるんです。ものをとろうとする「欲と意欲」と辛抱する「根性」と。辛抱っていうのはすごい疲れるし、苦しい仕事やから。海女はね自分に厳しいんです。息を止める長さも伸びました。漁では息の長い人、短い人はそれぞれの特徴に合わせて浅いところで回転を速くするか、深いとこいつて深くまで潜るか。みんな違うんです。

こんなにえらいと思いがちでも行くっていうのは何の魅力があるんやろうね。海女の仕事っていうのはその日のうちに値段、金額っていうかたちに出るっていうのが一番のやりがいやと思う。目標を達成したらうれしし、それが目に見えることがいい。海女っていうのは結果が出るからやれ

る。

■海女さん1年生

海女さんの仕事を始めたばかりとか無我夢中でしたね。そこにサザエが見えてもそこまで届かない。体が浮くっていうよりそこまで潜るのに息も呼吸も練習しないといけないし、水圧がかかってくるから耳抜きも必要。徐々に行かんとできへん。泳ぎは得意じゃなかった。ただ遊びで覚えてただけでそんな長距離も泳いだことないし潮干狩りみたいに簡単に思ってたからこんなに難しいとは思ってなかった。これは経験で前後ろ繰り返して体で覚えていく。先生はいないので先輩を見習う。見よう見まねで。昔まだ練習中で何年もたつてないときにアワビを捕りかけたらうまく捕れなくてあきらめようかなって思ったけど、もったいないので海女さんにここにアワビおるいうたら捕ってくれたことがあった。わざわざ追いかけてきてくれて浮き輪に入れてくれた。うれしい経験です。なかなか年数、経験がないと見つけるのも難しい。

船酔いとかもあったね。ウェットスーツの匂いとかゴムの匂いとか磯眼鏡を磨くときヨモギで曇り止めのために磨くからその匂いとかで気持ち悪くて。昔はね。漁のときとかは始めて間もないころは邪魔せんように時間いっぱいまで潜らずに5分くらい前で上がることが本当はルール。あってないようなルール。新人は先輩を手伝うために。仕事でも部活でも一緒にしょ？

■後継者問題

今、海女さんは後継者が全然なくて。地元の若い人で引き継いでくれる人がいなくて。結婚した人がなぜか入ってこないですね。子育てしやすいの。でもたぶんつながりというかきつかけがないのやと思う。そう

いう話を海女さんと話そうっていう会が若いお母さんたちとあれば興味を持ってくれる人も増えるかもしれない。できれば女の人についてほしいね。海女の文化をつないでほしい。

■外国との交流

韓国の子エジュ（済州）にも海女さんいるんですよ。日本の海女さんと向こうのパレードに参加したり向こうの人もきたりして。韓国の海女さんは優遇されてる。海女小屋もきれい。志摩の海女小屋を見て韓国の海女さんはびっくりした。かといって日本の海女さんに不満はないと思う。そんなに贅沢をたくさんしないから。贅沢するのは食べ物だけ。

全国から海女さんが集まって近況を交流したりする海女サミットとかでも韓国の海女さんとも交流してるんです。

■いろんな人との出会い

海女さんたちとの出会いも韓国の海女さんとの出会いもいろんなつながりができていろんな人たちに会えて海女しててよかったなって思ってます。海女だけじゃなくてほかにもいろんな仕事してきたからいろんな人と関わってきた。それで人間関係も勉強できたし、私は高校行っていないけど学歴だけが大事じゃないなって思うことも経験したり。成長するには人間



和具の海女小屋

【聞き書きを終えての感想】



私は取材初日はうまく話せるか、質問はできるかという不安でいっぱいでした。漁の見学から始まった取材では三橋さんにリードしていただきスムーズに進めることができました。取材のなかで三橋さんに「いろんな人と出会うことが大事」という言葉をいただきました。三橋さん自身さまざまな仕事で人と出会い、海女を通して人と出会いその経験から感じたことを話してくれました。また海女の仕事に関する取材のなかでは「つらい」という言葉がまったく似合わない内容の答えの連続でした。「苦労はそんなにない」、カッコいい言葉でした。海女という仕事を好きでいたのしみをみつけながら取り組む姿はまねできません。

この取材を通して得た知識、経験、関わりを今後の将来にいかしたいと思います。そして人との出会いを大切にしていきたいと思います。三橋さんに連れてっていただいた志摩を一望できる景色は私の良い思い出です。



profile

三橋 まゆみ

みつはしまゆみ

昭和 23 年 12 月 1 日・71 歳

職業：海女

【略歴】 33 歳くらいから 40 年近く海女をしている。71 歳になった今なお現役で仕事をしている。全国の海女さんと交流し国内だけでなく韓国といった外国との交流もし、また観光業について海女さんと体験できるツアーであったり講演会であったりさまざまな活動に積極的に参加している。

性が一番大事。自分にも人にも関わりはあっていろんなつながりがある。自分の勉強にもなるし生きてくうえでは自分も楽しい。プライド高いだけでは生きてけえへん。楽しくないよ。やっぱり 1 人ではだれでも生きてけえんから支えになる人があって楽しく生きやな。私は楽しみをつくって働きたいの。海女さんのなかで先輩の海女さんたちからも結構いろんなこと聞いてなるほど長いこと生きてるとそういうこともあるのかって思うときがある。先人の教えはすぐく大事。この時代になっても昔からのことわざが当てはまることがいっぱいある。いろんな人と出会ってきて、出会うたんびに経験して。人と出会うのが一番。いろんな人と出会うことが一番自分にはいいと思うよ。

【取材日…2019 年 9 月 11 日、11 月 5 日】



三橋さんと志摩の風景をバックに